

参考様式第2号

取組を行う作物名・作付け面積を作付け面積順（または収益順）に記入  
 ①全作付け面積（または収益）の過半を超える作物で取り組む場合：最上段に作物名および面積を記入、中段を「その他」とし、残り面積を記入する  
 ②全作付け面積（または収益）の過半を超えない2つの作物で取り組む場合：最上段及び中段に作物名および面積を記入、最下段を「その他」とし、残り面積を記入する

計画書

秋用肥料	春用肥料	年間
○		

注：該当するものに○を付けること

取組を行う参加農業者の氏名・住所・電話番号を記入

作付概要

作物名	作付面積 (ha)
水稻	5.0
麦	1.0
その他	1.0
計	7.0

氏名 熊本太郎  
 住所 熊本市〇区〇〇町〇〇-〇〇  
 電話番号 096-xxx-xxxx

1. 実施する(してきた)取組メニューに「○」を付けてください。  
 2. 「令和4年度又は令和5年度の取組」には、実施する取組メニューが2つ以上必要です。そのうち1つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。

取組メニュー	前年度までの取組	令和4年度又は令和5年度の取組
ア 土壌診断による施肥設計	○	◎
イ 生育診断による施肥設計		
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入		
エ 堆肥の利用	○	○
オ 汚泥肥料の利用(下水汚泥等)		
カ 食品残渣など国内資源の利用(エとオ以外)		
キ 有機質肥料(指定混合肥料等を含む)の利用		
ク 緑肥作物の利用		
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用		
コ 低成分肥料(単肥配合を含む)の利用		
サ 可変施肥機の利用(ドローンの活用等も含む)		
シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等)の利用		
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用		
セ 化学肥料の使用量及びコスト削減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し(ア～スに係るものを除く。)		
ソ 地域特認技術の利用( )		

私は、添付した領収書(請求書)等記載の肥料(肥料費)について以下のとおり、確約します。



令和4年秋肥又は令和5年春肥として確実に購入し、自らの農業生産に使用します。

※チェック欄にチェックした上で署名してください。

氏名(自署)

熊本 太郎

参加農業者の氏名を記入(自署)

(注) 当年の肥料費は、秋用肥料については令和4年6月～10月、春用肥料については令和4年11月～令和5年5月に発注したことを証明する書類(注文票等)と、参加農業者が肥料費を支払ったことを証明する書類(領収書等)または支払い義務が生じていることを示す書類(請求書等)を提出すること。  
 なお、肥料の種類、数量、購入費が記載されているものに限る。